

令和5年度第1回三木市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定検討部会 会議録

◇日時 令和5年8月31日（木） 13:30～15:20

◇場所 三木市役所5階大会議室

◇次第

- 1 開会
- 2 委員の紹介
- 3 部会長及び副部会長の選出
- 4 協議事項
 - (1) 計画策定に向けた国の方針と市の現状について
 - (2) アンケート調査の結果について
- 5 閉会

◇議事要旨

1 開会

(事務局)

定刻になりましたので、ただいまから、三木市社会福祉審議会「第1回三木市高齢者福祉計画・介護保険事業計画策定検討部会」を開催いたします。委員の皆様におかれましては、公私ご多忙中、ご出席賜り、誠にありがとうございます。

開会にあたりまして、健康福祉部長の井上から、ご挨拶を申し上げます。

(井上部長)

本日はお忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。

本日の検討部会ですが、ご存じのとおり高齢者人口は非常に問題になっています。2040年問題という言葉をご存じかと思えます。17年先になりますが、この時になると団塊の世代が高齢となることに加えて、生産年齢人口がかなり減ってしまう。今までなら「支えられる側」だと思っていた人にも、この頃には「支え手」になって頑張ってもらわなければ日本は立ち行かないのでは、と国も市も思っているところです。

国は「地域共生社会」という言葉を使っていますが、これまでなら、支えてもらえる人もいて、支える人もいてということでしたが、その境が無くなり、支えられる人はいくつになっても支えていって、お互いに支えられる社会をつくろうということ国も動いています。

介護の負担が増える一方で、支える子どもを育てないといけないのでそちらにお金

を持っていくという話になったり、そうした世の中の動きの中で、三木市の計画を作っていかなければならないと思っています。

三木市だけのことを見てもいけないし、国の動きも合わせて、この先の3年間の計画だけでなく、10年・20年先のことも考えながら、皆さんと一緒に計画策定を進めたいと思います。

どうぞお忙しい中とは存じますが、お知恵をいただき、いい計画を作りたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

後ほど事務局から説明がありますが、本日は社会福祉審議会から8名、特別委員として介護保険運営協議会からもご参加いただき、合計19名の部会となっています。こういう機会に顔見知りになっていただき、それぞれの分野でご活躍いただければと思います。本日はどうぞよろしく願いいたします。

2 委員の紹介

【委員紹介】

【事務局紹介】

3 部会長及び副部会長の選出

(事務局)

続きまして、次第の3番目としまして、この検討部会の会長、副会長の選出に入らせていただきます。慣例によりまして、事務局の方から、会長に、三木市医師会理事の「池田委員」を、副会長に、三木市社会福祉協議会会長の「植田委員」にお願いしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【異議なし】

(事務局)

ありがとうございます。それでは、池田委員、植田委員におかれましては、前方の席へのご移動をお願いします。

それでは、池田部会長、一言ご挨拶をお願いいたします。

(部会長)

本日はお忙しい中ご出席いただきありがとうございます。委員の皆様方においては、三木市の福祉・介護に多大なるご協力・ご支援をいただいておりますこと、御礼申し上げます。

今後、高齢者の人口増加は緩やかになる中、85歳以上人口は2040年に向けて増加

が見込まれています。その結果、医療・介護・福祉の複合ニーズを有する人は増加し、福祉・介護サービスの利用者も増えていくことが見込まれます。本日は皆様の忌憚のないご意見をいただき議事を進めたいと思います。よろしく申し上げます。

4 協議事項

議題1「計画策定に向けた国の方針と市の現状について」

(事務局)【資料に基づき説明】

(部会長)

事務局から説明がありました。

何か委員の皆様からご質問・ご意見があればお願いします。

(委員)

資料の「国の基本方針の見直しポイント」に書かれている中から、地域性も考えて今後、策を練っていくということでしょうか。

(事務局)

そのとおりです。

(委員)

全国課長会で出てくる国の方針は、こういうざっくりしたものなのでしょうか。

(事務局)

もう少し詳しいものも出ています。今後、国の資料を読み込みながら、取組内容を検討していきたいと思っています。

(部会長)

ほかに、ご意見等ないでしょうか。

(委員)

介護人材が、何年後かに38万人足りないといったことが出ていたと思います。

そのために、日本人だけで人材確保ができなければ、外国の方に来ていただくなど、今でも介護者や看護師の養成があるでしょうが、そのあたりの力を入れなければ、日本人だけでは難しいと思います。介護保険計画ではどうなるのでしょうか。

(事務局)

資料2ページにもありますが、国の方針で「地域包括ケアシステムを支える介護人材の確保」が言われています。

委員ご指摘のように、外国人労働者の確保も1つ考えられます。要介護者が増える一方で、今後、介護人材がどれだけ必要になるかという推計も必要になると思います。

支え手が少なくなった時にどうするかについても、今後考えるべき課題になります。

(部会長)

医療・介護の現場でも、ケアマネジャーが10年前から半分くらいに減っており、全体的に問題ですが、給与アップなどのお金の話に関わってきます。

外国人労働者を増やすということもあるでしょうが、三木市独自でも介護職員を増やすことを考えていただければと思います。

他にご質問などないでしょうか。高齢者夫婦のみ、高齢者単身世帯も増加傾向にあります。

(委員)

結婚して京阪神から三木に移り住んだ夫婦が多いです。

しかし、その子どもは市外に就職し、一度、市外に出ると、なかなか三木に住んでくれず、その結果が夫婦だけの世帯になっています。

そこで何ができるかと言えば、自治会も福祉のメンバーとしてやっていかなければいけないですが、どれだけ元気で医者にかからずに行けるか、それを仕組みとして持っていけるかが大切だと思います。

自治会活動の参加者は同じ人ばかりで、参加しない人は参加しないので、そういう人にどれだけ入ってもらえるかということも、介護を側面から支えることになります。

活動に参加される人は、いきいきと良い顔をされていますので、自治会の中でもいろんな形でそういう方と、近所の方は大きな支えになってくると思います。一番難しい問題ですが、施設とともに近隣の支えができるかということを考えて自治会活動をやっていきたいと思います。

(委員)

訪問看護ステーション利用者で、本来なら週に1回は行かないといけないのですが、お金がなくて月に1度になっていました。

他の自治体もそうでしょうが、行きたくても行けないという人もいます。収入が少なく、必要なだけ利用できているかということも、難しいでしょうが考える

とよいと思います。

(部会長)

ありがとうございます。他にご意見はないでしょうか。

(委員)

どの年齢になれば「高齢者」と呼ぶのでしょうか。75歳でも85歳でも元気な方はボランティアをされていますので、高齢者という区切りは見つけにくいと思います。85歳でも施設で傾聴などされている人もいるのですが、町内の役だと「高齢者だから」と引いてしまわれることもあって、うまく活用できないかと思います。

(部会長)

元気な方はいらっしゃるので難しいですね。

三木市は介護サービスの給付で、施設の割合が大きく、地域密着や居宅介護が少ないようです。何かご意見はないでしょうか。

(委員)

三木市の現状を確認しておくという意味で、8～9ページです。

「高齢化率」や「75歳以上人口の割合」が、三木市は兵庫県・全国に比べて高い。令和4年度の高齢化率が三木市は35%ですが、兵庫県・全国が三木市と同じ35%になるのは何年後だろうと思います。

たぶん三木市は、兵庫県・全国の10年先を走っていると考えてよいのではと思います。

「75歳以上人口の割合」でも、三木市は令和3年から令和4年にかけて大きく上昇しています。県も全国も上昇していますが、これの3～4%先を行っているということで、やはり三木市は三木市ならではの大きな課題と言うか、全国レベルでとらえている課題よりもさらに先の課題を三木市が抱えていると受け取っていいのではと解釈しています。

さらに9ページですが「高齢者夫婦のみの世帯の割合」も、県、全国に比べて高いということで、「老老介護」という言葉がありますが、夫婦いずれかが介護状態になると共倒れが懸念されます。

「高齢者単身世帯の割合」は、三木市は少なかったものが、これも令和2年には国・県に並んでいます。この勢いでは、現在（令和5年）では追い抜いているかもしれません。私の地域でもたくさんあります。そういう方は孤独死されていたということも多々聞きます。

(事務局)

先月の社会福祉審議会でも同様のご意見があったため、今回、県と国との比較の資料を作りました。確かに三木市が10年先を行っていると思います。

今後の人口の推移については作業中で、次回お示ししたいと思いますが、ご指摘のあったとおり、現在の三木市の高齢化は国・県の10年先を行っているように見えます。そうであれば、なおさら介護の支え手が不足することも考えられますので、それを見据えた計画づくりも考えていく必要があります。

老老介護については、今回資料に掲載したアンケートとは別に、在宅で介護している方の年代を聞いていますが、60歳以上の介護者が6割と、半数以上が老々介護となっています。今後高齢者が増える中で、どのような介護の在り方がよいかということについても委員のお知恵をいただきたいと思っています。

議題2「アンケート調査の結果について」

(事務局)【資料に基づき説明】

(部会長)

何か意見はないでしょうか。

(委員)

市内のコミュニティバスにどうやったら乗れるかともいつも思います。

活性化できれば、免許証の自主返納も進み、認知症の早期発見で50～60歳の認知症治療にも早くつながるかと思います。あのバスを活用できればいいと思います。工夫の仕組みが欲しいと思います。

(部会長)

三木市の高齢者の重要と思われる施策でも「食のサービス」「介護サービス」そして「交通機関の充実」ということが上位となっています。市においてもまた検討いただければと思います。

ニーズ調査の結果についてのご意見はいかがでしょうか。

(委員)

24ページの「口腔機能の低下リスク」が23.5%と多いですが、どれだけ元気で居られるかに関わってくると思います。肺炎予防にもかかわります。早い時期にかみ合

わせを戻すと健康が続きますので、そのあたりを活用していただければと思います。

それから「オーラルフレイル」という言葉が少しずつ広がっていますが、体のフレイルの一つで、かみ合わせなどを早いうちに気をつけると健康づくりに関わりますし、早期予防になりますので、どこかでオーラルフレイルについて触れていただければと思います。

(部会長)

「口腔機能管理」は非常に大事な話だと思います。

いつまでもおいしく食べられることで、栄養改善やメタボの予防、健康寿命の延伸に関わると思います。

歯が良くないと、柔らかいものしか食べられなくなり、肉や魚を食べずに筋力が落ちるなど負のスパイラルになりますので、歯の問題は栄養と関わって大事です。

(委員)

ニーズ調査を踏まえた課題がまとめられています。これをうまく生かして、高齢福祉や介護保険事業にうまくリンクされている自治体はあるでしょうか。

前回調査との比較は分かるのですが、それをどのように生かしているか事例はあるでしょうか。

(支援事業者)

統計の結果を見て、それで終わってしまうと非常にもったいないと思います。

統計データの役割として、一つは数字を見て「何が課題かを発見すること」、もう一つは「やはりそういう数字になるのか」と現場でも気づかれていた数字が表れたと思われた方もいらっしゃると思います。

そのような現場の「気づき」に裏付けを与えるというのも、数字の大事な役割だと思います。

その意味で有効な活用と言うと、例えば静岡県の自治体ですが、主な調査結果や前回との比較、地域別の集計をまとめたデータを、それぞれの地域包括支援センターに情報提供し、「この地域ではこういう数字だけれど実感としてどうですか」といったやり取りをしている自治体があります。市役所でデータを持つだけではなく、包括と共有することで、現場レベルで地域を回って感じていることが数字で出ている、又は、知らなかったけれどもリスクのある人が増えている、そういうことを地域とのやり取りや重層的支援体制づくり、総合相談などの地域づくりの取組の中で、住民とも「こういう数字が出ているので気をつけてほしい」とか「外出が減っているから力を入れなければ」など、現場の取組で意識された上でつながっていくというのは、上手く活

用されている例かと思えます。

(委員)

そういう先進的な取組をしている所に視察をするのも一つでしょうか。

(支援事業者)

どのような方が、どのような立場で視察に行くかというのはあるでしょうが、当然考えられる一つかと思えます。

(部会長)

支え合いの関係づくりについても、何かあった時に相談する相手などで民生委員や老人クラブなどが大事になってきます。

(委員)

民生委員をやっています。私もこのアンケートに回答しましたが、自分の健康づくりについて、特に何も考えていない人がとても多いというか、今はいいかもしれないけれども、先のことは考えないと誰も守ってくれません。自分ができる運動や楽しむことができる時に皆と参加していなければ、急に年をとってから参加しようと思ってもなかなかできません。70歳ぐらいから地域でボランティアをするなり、元気な方に地域活動に参加してほしいと思うのですが、断られてしまいます。どうやって地域で参加できる場を作ればいいかなど。民生委員としてサロンもやっていますが、もっといろんなジャンルで得意な人が活動できるといいと思うのですが、個人の気持ちまでなかなか動かさず、模索しています。

(委員)

今回の調査は、第8期に比べると若い人が回答していますが、その割には身体的機能や活動面で、転倒リスクも上がっていて、少し心配だと思いました。60歳代の定年後の生活習慣で足りないものがあるのかと思いました。

もう1点はゴミステーションのことで、「できるけどしていない」というのは「家族がやっている」ということだと思のですが、そういう答えでしょうか。ゴミ出しができていないかの把握のための質問だったのででしょうか。

(事務局)

家族ができていたらいいですが、ゴミ出し支援策も必要かもしれないということで、今回アンケートをしたところです。

(部会長)

ほかにご意見などないでしょうか。

(委員)

44 ページの認知症について、認知症カフェを知っている人がとても少なくなっています。私も取り組んでいますが、どうやったら知っていただけるか、どうやって来ていただいたらいいかを考えています。

また、高齢になると、歩いて参加できず、どうやって来ることができるかということがあります。私たちの所は、バス停まで何十分歩かなければならなくて、それをどうしたらいいかという話をしています。認知症カフェに来ていただくには足がある、知ってもらうためにはご近所の声かけもいる。どうしたらいいかと悩んでいます。これからも悩まなければいけないかと思っています。

(部会長)

なかなか解決が難しい問題がいろいろとあると思います。

(委員)

移動手段については、アンケートの中でもいろいろ出ていたと思います。田中委員がご指摘のように、三木にはもともとの路線バスがあります。私の記憶ではみつきいバスはもうなくて、普通の路線バスになっていると思いますが。もう一つ、吉川で始まった「チョイソコみき」というバスがあります。それと、別所や口吉川、自由が丘で、地域の人が運転手になってワンボックスの車を地域で運転してもらって地域の中だけ走るバスと、普通の神姫バスの路線バス、緑色のバスもあります。それと、別所や自由が丘、口吉川で、地域の人がボランティアで運転しているコミュニティバス、それから新たにチョイソコという業者が予約制で走るバスがあります。バス停限定ではなく、予約制である程度近い所まで、行ける先は限られていて、店や病院などでタクシーとは少し違います。そういう3つの交通手段を使いながら外に出ていただけるようにということを考えています。この話になると、なかなか福祉だけで解決しない問題です。

今回の高齢者福祉計画や介護保険事業計画では、介護保険の保険料やサービスの話も出てきますが、高齢者が地域で暮らし続けるための施策やアイデアもここに載せていかなければいけないと思っています。

ですので、アンケートの中でも、買い物支援や交通手段もそうですし、参加者が少ない問題、サロンやいきいき体操へのきっかけづくりもいろいろ考えますが、意欲を

かきたてるのは地域の口コミが一番なのかとも思っています。

今日いらっしゃる方は意欲的な方々ですが、いろんな方に声をかけていただいて、地域のつどいを企画したり、声かけして参加していただくということも介護予防になりますので、またお願いしたいと思います。

5 閉会

(副部会長)

本日は忌憚のないご意見をたくさんいただきありがとうございました。

本日は老人クラブの代表の方が欠席されていますので、来られたらまたいろんな意見をいただければ、と思います。

この会は、高齢者福祉計画と介護保険事業計画という二つの計画を検討していく会です。高齢者福祉について、私は社会福祉協議会ですので、福祉についてよく考える機会がありますが、福祉というとやはり「幸せ」ということですね。高齢者福祉計画は「高齢者が幸せになる計画」、介護保険事業計画は「介護保険を安心して使っただけの計画」、そういう計画にしようというのがこの会の大きな目的だと思います。

途中で意見を言いたかったのですが、協議事項2の19ページ、アンケートの回答率がすごいと思います。85%。おそらく前回のアンケートはもう少し低かったと記憶しています。ですので、この結果というのは、かなり大事に扱っていいのではないかと思います。年齢構成が少し違っていますので、前回と同じ、前回から落ちていないということでは困るわけです。若い人が増えていますので。転倒はあまり変わっていないという結果が出たら大変なわけです。65歳～69歳の方が増えていますので。ですので、もっとシビアにみていく必要があるように思います。

この結果を見ると、高齢者の方はこの3年で本当に幸せになっているということがここに出ているでしょうか。「幸せと感じているか」という質問が42ページにあり、第8期は7.08、第9期では7.13で幸せに思う人は増えています。

しかし、そのとおりに受け止めて本当にいいかと思います。点数は増えていても、総合的にみればとてもでないけれど高齢者がこの3年間で幸せになったとみてはいけないと思っています。

それは他のデータから感じっていますが、コロナ禍で困った状況が出てきています。49ページで「今後特に重要になること」を聞かれた時に「食を支える」「命にかかわる」ことです。そして介護の質の向上、交通機関、看護の充実、介護サービスなど非常に重要なことですが、注目したのは下の方の「生活困窮予防などの対策」。これがパーセントは少ないですが、伸び率が50%です。前回と比べて9.7%が14.6%に増えています。また「消費者被害の防止」も伸び率が67%です。全体のパーセントは少ないですが、非常に伸びているということも大事に見ていく必要があると思います。

そのように私はデータを読みました。

そして42ページに戻ると、「とても不幸」という0点が0.4%です。1,800人のうち7.2人、三木市全体では90人がとても不幸と答えている、と考えないといけないです。ですので、やはり私はこの結果を重く受け止める必要があります。

その対策も最後にうまくまとめていただいています。52ページで、いろんな相談機関や制度があるけれども、そこにどうやってつながるか、つながっていない方が多いです。そこをどうつなげていくか、社協でも一生懸命やっていますが、ここが行政だけではできない、社協だけでも、民生委員さんも一緒にやっているけれどできません。

ここで「多様な主体」ということが大事になってきます。いろんな方が寄ってたかって、連携しながら支援につなげていく、つなげていかなければならない。バス停まで行けない人がいる。じゃあ仕方ない、で終わってはいけないと思います。地域によっては、その方の家まで車で迎えに行き、ふらっと銭湯に行きましょうとやっている地域があります。「楽しかった」「行けるなんて思っていなかった」といきいきされている地域があります。地域によってとても差がありますので、そのところをどう埋めていくかは行政も躍起になっていますが、各地区のまちづくり協議会や区長協議会が頑張らないとできない問題かなと思っています。

長い話になりましたが、この結果を重く受け止めて、一人でも高齢者が幸せになれるような、三木ならではの計画を作っていけるよう、委員の皆様も一緒になって、検討していただければと思います。ありがとうございました。